

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立高須小学校	校長氏名	上野 克典	生徒指導主事氏名	正本 武士
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『「山・海・島」体験活動』

取組のねらい『キーワード ～自立と自律～』

- 広島県立福山少年自然の家での野外生活を行う中で自然に親しむとともに、様々な体験を通して、主体性や計画性を身に付ける。
- 共同生活を通して、集団の規律・協力の大切さを知り、仲間意識を高める。
- 様々な体験をすることによって、小学校生活の楽しい思い出づくりをする。

取組の具体的内容『キーワード ～夢キラ7（セブン）～』

★個人として

- 1 自分で考え、判断し、行動できる主体性を身に付けよう！
- 2 見通しを持って行動できる計画性を身に付けよう！
- 3 最後までやり切る忍耐力や行動力を身に付けよう！

★集団の一人として

- 4 集団活動でのルールを守る力を身に付けよう！
- 5 集団で活動する協力する力を身に付けよう！
- 6 友達の良さを見つける力を身に付けよう！
- 7 あらゆる「人・もの・こと」に感謝する心を身に付けよう！そして、感謝の気持ちを表現できる力を身に付けよう！

取組の課題・創意工夫『キーワード ～主体性と協調性、そして感謝する心～』

- ・個人及び集団の目標を児童と共に話し合い、夢キラ7（セブン）として設定した。
- ・「リーダー、サブリーダー、食事、広報・衛生、アクティビティ」の5つの係を設定し、どの係に属するのかを自分たちで選択させ、児童の意欲を高めた。また、選択した係ごとに分かれての事前指導を行った。（自分の係以外の仕事が他の人には分からない状態にし、自分の係に責任を持つように仕向けた）その後、班編制を行うことで、各自の役割が明確となり、自覚と責任を持って活動できるように仕組んだ。
- ・星空観察の時間を設け、普段は味わえないシチュエーションの中で仲間と活動をする取組を行った。
- ・SAF（サーフ）プログラムを取り入れ、①自ら考え、物事に進んで取り組む力、②自分の考えを伝え、他者の意見を受け止めながら意思疎通を図る力、③困難だと思ふ課題に対して果敢に挑戦する力、④自他の考え方の違いを認め、仲間と力を合わせ取り組む力の育成を図った。
- ・事前に家族の方に内緒で手紙を書いて頂き、それを読む場を設けた。離れているからこそ分かる家族のありがたさに気付かせ、手紙を返す活動を取り入れた。

取組の成果（効果）『キーワード ～振り返りで成長に気付かせる～』

- 野外炊さんを2回実施したことで、児童は見通しを持つことができ、児童の主体性や計画性、協調性など、多くの力が養えた。児童間の絆が深まったと思われる。振り返りの時にも児童は2回目の野外炊さんでは主体的に動くことができたという記述が多かった。
- 星空観察の時間を設け、普段は味わえないシチュエーションの中で活動をしたことで、仲間同士のつながりができ、自然の素晴らしさを共有することができた。
- 「家族からの手紙」を読ませたことで、改めて家族の大切さ、尊さに気付くことができた。また、今ある自分は当たり前で生きていくのではなく、多くの人に支えられて生きていくことにも気付くことができ、あらゆることに対して感謝の気持ちを表す児童が増えた。
- 振り返りの時間を充実させたことにより、翌日にめあてを持って意欲的に活動に取り組むことができた。また、自分自身の成長も振り返ることができた。

今後の展開『キーワード ～見通しと準備～』

- 児童を主体的に動かすには、児童がしっかりと見通しを持つことができなくてはならない。そのためには教師側の準備を早くし、児童への事前指導をしっかりと行っておかなくてはならない。スケジュール表を元に、なるべく児童が考えて行動し、教師は口をはさまなくて良いようにしていく必要がある。

他校へのアドバイス『キーワード ～打ち合わせを入念に～』

- 学校側の思いと施設の方の思いが違う場面があり、少し困惑したことがあった。入念に打ち合わせを行い、つけたい力を明確にした上で学校側の思いを伝え、話し合っていく必要がある。